

# 1 給食で食育を充実させましょう

## 給食は大事な時間です！

正しい知識を得ること、体験することは、いつか親になる子どもたちにとって、とても大切なことです。そして、楽しく食べることができる環境づくりは、よりよい人間関係づくりにつながります。

「ふれ合い給食週間」を設け、学級担任に加えて、養護教諭、栄養教諭等だけではなく全職員がローテーションで給食指導にあたっているという学校も見られました。



中学校での給食の様子

学 校

地 域



営農センターの協力による野菜栽培

「地域の伝統料理の伝承は、今後もずっと続けていきたいものですね…」



地域食育コーディネーターによる絵本の読み聞かせ



地域支援者による稲刈りの様子

# 3 地域とのつながりを大切にしましょう

気仙沼市、南三陸町は豊かな食材と人材に恵まれています。五感を使った体験を通して、学びが深まります。

\* 連携方法や手段についての相談は、次の関係機関に問い合わせを。

- 気仙沼保健所 成人高齢班（健康・栄養指導などについて）
- 気仙沼地域振興事務所 地域振興部（地域の食材などについて）
- 南三陸教育事務所 教育班（学校での食育について）

未来の体はこれからの食事で作られます。



地域支援者の協力による餅つき

学校歯科医の協力による授業

# 2 全職員で食育を 実践しましょう

各学校の「食に関する全体指導計画」に、ねらい、教科・領域との関連等について記されています。食育は、養護教諭、栄養教諭（学校栄養職員）、給食主任等がコーディネーター役となり、全職員で情報交換したり、協力して取り組んだりすることによって、効果が上がります。

また、児童・生徒による主体的な活動（児童会・生徒会活動等）の推進にも努めましょう。



担当教師と養護教諭とのTT（家庭科）

「家では食べない野菜なのに…こんなにおいしそうに食べてる…」  
給食マジック!?



親子給食試食会の様子

「毎日でもなくてもよいから…」

# 地域とつながってより楽しく

# 4 家庭への啓発を工夫しましょう

給食試食会、親子料理教室、学級懇談会、お便り等で、家庭でも食育への関心が高まるような働きかけを工夫しましょう。

手作りの食事を！ バランスよく、あたたかい食事は**体の栄養**になります。家族一緒に食事を！ 子どもと親とのコミュニケーションは**心の栄養**になります。

子どもが食べたいものよりも、子どもに食べさせたいものを…

平成24年度にスタートした宮城県教育委員会の「学校・地域保健連携推進事業（学校保健課題解決）」を受けて、子どもたちの健康課題の解決を図るために、様々な活動に取り組んできました。中心になって活動する学校保健支援チームは、地域の専門家、県保健・福祉関係機関、市町村保健・福祉関係課・係、市町村教育委員会、幼稚園、小・中学校、教育事務所のメンバーから構成されています。毎年、テーマを決めて、課題は何か、課題解決のためにできることは何かを話し合ってきました。今年度は、管内の子どもたちの健康課題のひとつである「肥満傾向」に着目し、「望ましい食生活の在り方を探る」というテーマを掲げ、学校視察や研修を通して、肥満傾向の解決のためにできることは何かを話し合いました。課題解決に向けて、見えてきた糸口は、「食育のさらなる充実」です。

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を、生きる上での基本として、**知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。**（食育基本法 前文抜粋）